

会 議 記 録 簿

件 名	恵庭市生涯学習推進協議会（令和2年度第5回）		
日 時	令和2年11月11日（水）9：30～11：30	会 場	えにあず会議室2.3
出席者	<p>【協議会委員】</p> <p>松田委員 太田委員 松井委員 三科委員 結城委員 塩野委員 井上委員 相馬委員 池川委員 大嶋委員 水野委員 茶園委員</p> <p>【教育委員会（社会教育課）】</p> <p>渡部課長 桑原主査 佐々木主査 村本主査 中村主任主事</p>	人 数	委員 12名 市教委 5名
概		要	
<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 恵庭市生涯学習推進協議会 会長 松田一則</p> <p>3. 【議題】</p> <p>(1) 全体協議：</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整会議について報告 <p>①第5期生涯学習基本計画 基本目標、重点施策、想定される事業（案）について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フローチャートについて説明 ・第5期生涯学習基本計画基本目標、重点施策、想定される事業（案）内容について説明 <p>(A委員)</p> <p>「基本目標4－重点施策③多様な施設の利活用」に「恵庭芸術文化宅配事業」があるが、「重点施策①文化芸術に関わる人材との連携強化」に移動したほうが良い。</p> <p>(事務局)</p> <p>重点施策③には施設への展示ということで記載しているが、重点施策①のキーワードにも入れていたため、重点施策①にも記載することとしたい。</p> <p>②第5期生涯学習基本計画 構成について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5期生涯学習基本計画 構成について説明 <p>(B委員)</p> <p>第3期と比較し、事業評価件数が減っていると思うが推進会議で該当事業を決めているのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>当課で生涯学習要素のある事業を評価に入れるよう各課に打診し、調整の上、評価事業としているものが多い。事業数の減少については、評価事業が多くなり委員の負担が多くなったことや、事業の開催が民間や指定管理者に移行したこと等から、事業数が減少したと認識している。</p>			

(B委員)

個別の事業に生涯学習の観点をもってもらうために事業評価を行うことはいいことだが、事業評価をあまりにも重視してしまうと、委員も担当職員も大変だと思う。生涯学習の視点で、各課がどのように関わったかということの評価するのが良いと思う。

また、事業評価をすることが目的となっていないか。生涯学習全体を評価することが大切ではないか。

(事務局)

これまでの事業評価の取り組みとして、多くの事業を評価し、それを続けることで生涯学習を推進してきたが、事業評価のための評価となっているなど反省点や課題が委員から出ていた。これらを踏まえ、今後の事業評価をどのように進めていったらいいか、今日のワークショップで議論して欲しい。

構成の第3章で、評価の方法や生涯学習全体広い視点で掲載する予定。それを踏まえてワークショップで議論をお願いしたい。

B委員の意見は、これまでは各事業を生涯学習の視点で評価し、基本目標や重点施策の達成度を見てきたが、基本目標や重点施策への評価というイメージか。

(B委員)

事業評価のプロセスは良いし、他の行政機関にはないものだとは思っている。

しかし、推進協議会委員はもっと広い視点で、恵庭市の生涯学習という視点で評価する方が、私は関わりやすい。

事業については、推進会議に周知し手を挙げてもらう方法もあるのではないか。

(C委員)

「生涯学習振興法」(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)に沿って各市町村で計画が作られるものに、地域の実情を練り込むのが我々の責務。市民の意見をそれ以上に聞こうと思ったら住民アンケートをしないといけなくなる。委員が背負っているもの、認識しているものから、恵庭市の生涯学習を良くしていくことを話し合うのがこの協議会であると理解している。

(D委員)

個別事業のPDCAをするのが目的ではない。個々の事業評価に重点が置かれており、全体の評価ができていないということだが、第4期全体の協議を行うのはこれまでなく、今年に入ってのワークショップが初めてであったと思う。

目的と手段が逆になっているのではないかということも、もっともだと思うが、どのようにして市民の学習活動をカバーしながら議論していくことが大事である。ひとつのツールとして個別評価を行い、ひとつの事業から生涯学習を市民と行政が協働で考えていくという方法でやってきている。目的を理解いただいたうえで議論いただきたい。

(B委員)

事業評価がダメだとは言っていない。生涯学習全体のマクロの視点の議論が必要。

(D委員)

ミクロもマクロも大事であると言っている。次のワークショップで意見を出して議論していく方が良い。

(B委員)

ワークショップではなく全体で協議し、それぞれの意見が分かった方が良い。ワークショップで個人の意見はたくさん出ており大事にされていると思うが、全てを反映させられているのか。

(事務局)

皆さんからたくさんの意見を出してもらうのが、ワークショップの目的だと思うが、全部を集約するのは困難であり、次の計画ではどこに重きを置いて作っていくことを決めていく場でもあると思う。恵庭市では、生涯学習を推進していくひとつの手法として、事業評価が行われてきたが、このやり方が全てではないと思う。

皆さんに、これからも事業評価を行うことが大切だと考えられており、それをどのように第5期で取り組んでいくのが良いのかを話しあっていただいていると理解している。

(B委員)

恵庭市の生涯学習を社会教育課としてどのように進めていくという視点が大事だと思っている。それが事業評価のどこにあてはまるのか。

(事務局)

次のワークショップでそれも含めて議論していただく考えである。内容、スケジュール、シートの事務局案を用意しているが、これまでの第4期の検証で全体の評価がないなどの意見もあったため、それも付け加えている。事業評価全体の議論をワークショップで行って欲しい。

(D委員)

B委員が仰っているように、評価そのものについても意見を出しても良いのか

(事務局)

評価のありようから議論していただいて良い。

(会長)

私たち委員は恵庭市の生涯学習を推進するために選ばれており、その方法はたくさんある。恵庭市ではひとつの方法として事業評価を行ってきており、ずっと行ってきたため、自分たちの意識が事業評価ありきの考えとなっている。本来は広い視野で考えることも必要だが、今年度は第5期の策定中でもあり、それを考える時間も場所もない。

策定を進める中で、委員の想いを事業評価の中に入れ込めるように、議論を行いたいと思う。

(E委員)

議論をホワイトボードに書きながら議論していくと、より理解が深まると思う。

推進会議の様子も分かった方が、協働での立ち位置が理解できると思った。

(F委員)

委員や社会教育課は、生涯学習を理解していると思うが、社会教育課以外の担当課はどう感じて事業を実施しているだろうか。行政側にも生涯学習を理解してもらおうと、恵庭市全体に生涯学習が広がっていくのではないかとと思う。

(事務局)

確かに他の担当課が生涯学習の視点を全て理解しているかといえばそうとも言えないが、推進会議はそれを理解してもらおう場だとも思っており、事業評価を繰り返すことによって担当者が生涯学習やその視点を理解していくものと考えている。行政全体に少しでも学びの視点を持ってもらえるよう取り組んでいきたい。

(2) 報告：ワークショップ「第4期事業評価について」結果について

(事務局)

・ワークショップ「第4期事業評価について」結果について報告

(3) ワークショップ：「第5期評価方法について」

(事務局)

- ・ワークショップ：「第5期評価方法について」説明) → (ワークショップ)

4. その他

(事務局)

- ・今後の日程について確認

5. 閉会

協議会の様子



Aグループ



Bグループ



Cグループ